

今号は病院長に、新年度に病院が推進していく事業について寄稿いただきました

新年度に病院が推進していく事業について

令和4年4月1日付けで大学病院長を再任させていただくことになりました。引き続きご支援、ご指導の程宜しく願い申し上げます。

さて、2020年度以降、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の全世界パンデミックにより社会の混乱が続いています。この状況下、徳島大学病院は先進的な高難度医療を実践する特定機能病院としての機能を担いつつ、県民をCOVID-19から守るために職員一同、全力で取り組んでいます。本院の大きな使命を果たすためにご尽力頂いている職員の皆様に心より感謝いたします。

1. COVID-19対策: COVID-19を院内に持ち込まない、院内で拡大させない、院外に持ち出さないことを基本に、病院体制・機能を整備しています。昨年10月、発熱トリアージと感染防御機能を強化するために外来棟に隣接した災害・感染症トリアージ棟を稼働させました。2階には、パンデミック時の健康危機管理の体制基盤となるDMAT準備室を設置しました。COVID-19第6波で増加している特殊病態入院(妊婦、小児、難病罹患者)に対応するために順次、陰圧室を整備していきます。

2. 先端医療の開発・推進: 医療ニーズにマッチした全人的・診療科横断的なセンター化医療を展開し、大学病院の診療機能を発展させます。ゲノム医療センターを立ち上げ、遺伝相談のみならず診断・研究機能も充実させ、全診療科におけるゲノム医療の標準化を進めます。がん診療連携センター(がんゲノム医療部門)と密に連携しゲノム医療全般の高度化を図ります。総合臨床研究センターでは、従来の治験・臨床研究・人材育成の支援はもちろん新規医療の開発に繋がるシーズの発見・育成支援にも注力します。ひと山プロジェクトや臨床研究推進費の創設はその支援事業の一環であり、若手医療者のチャレンジを期待しています。

3. 働き方改革: 単に労働時間を短縮するだけではなく、働き方を改善して働きがいのある職場にしたいと考えています。医師の働き方改革推進委員会を立ち上げました。医師、職員の意識改革に努め、タスクシフト/シェアの推進と労働時間の質、管理の適正化のための自動勤怠管理システムを試行しています。働く場(病院環境)の管理や改修も必要で、新たに施設企画管理連携室を設置することで計画的に対処していきます。

その他に、医療の質や患者安全の向上のために病院クオリティ・インディケーター(QI)の設定・公表、病院DXやICTを推進し次世代型病院(スマートホスピタル)への開発を加速していきます。今後も徳島大学病院の強み(がん、手術、難病、高度な救命集学的医療、教育・研究)を伸ばし、地域社会の健康を守り支える医療的・社会的価値の高い病院として発展するよう、皆様と共に取り組んでまいります。



徳島大学病院長
香美 祥二

病院で取り組んでいる様々な事業についてご紹介します

IRUD(アイラッド、未診断疾患イニシアチブ)について

—「未診断」の患者さんの遺伝学的確定診断を行い、病態解明・治療法開発にも役立てます—

近年のゲノム・遺伝子研究の急速な発展により、私たちが診療現場で実際に行う患者さんのマネジメントも大きく変わってきています。例えば、原因遺伝子変異を同定することで正確に予後を判断する、あるいは、特異的治療を導入することも可能になっています。さらに、臨床的にはどうしても診断がつかない患者さんにおいて、次世代の遺伝子解析機器を用いた網羅的解析により遺伝学的な確定診断を行い、積極的なコミットメントが可能になるような例も経験されるようになってきました。そう遠くない未来には、糖尿病、高血圧、脳卒中などのリスクをゲノム・遺伝子で判断し、日常診療に生かすような状況になることも予想されます。

日本医療研究開発機構(AMED)で行われている事業のひとつに、IRUD(未診断疾患イニシアチブ)があります。これは、臨床現場で診断がつかない疾患の患者さんの情報共有と診断確定、そして治療を見据えた病態解明を目的として、「難病克服プロジェクト」のもとで平成27年から行われているプログラムです。徳島大学病院は、平成28年に四国高度協力病院となり、平成30年からはIRUD拠点病院(全国に39施設)となっています。

IRUDの解析対象は、以下の①又は②を満たし、6ヶ月以上にわたって(乳幼児は除く)持続し、生活に支障のある症状があり、診断がついていない状態の患者さんです。

①2つ以上の臓器にまたがり、一元的に説明できない他覚的所見を有すること。

②なんらかの遺伝子異常が疑われる症状であること。(血縁者、兄弟に同じような症状が認められる場合を含む。)

このような患者さんと、場合によってはご両親など血縁者の採血も行い、遺伝子の異常について調べます。解析結果は徳島大学IRUD診断委員会で検討した上で、主治医の先生にフィードバックしております。是非ご活用下さい。

【お問い合わせ】IRUD事務局:088-633-9978

～研究に携わる主な診療科～

脳神経内科



臨床遺伝診療部
・小児科



研究責任者

脳神経内科 和泉 唯信

病院News

全国国立大学病院の経営改善案について

経営企画系の経営改善案が、6年連続で優秀賞を獲得しました

法人化以降、大学病院を取り巻く環境は一層厳しく、大学病院が地域医療の中心となり継続的に高度先進医療を提供していくためには、経営面でのさまざまな改革が必要となってきています。平成28年度から、全国国立大学病院が収入と支出を計算する管理会計システム(HOMAS2)を一斉稼働させたことにより、他大学病院との比較データを用いた経営分析が可能となりました。

このシステムを用いて作成された経営改善案について、令和3年10月に全国国立大学病院 経営関連等事務職員244名がWeb会議にてグループワーク及び意見交換、投票を行った結果、経営企画係 林事務員(写真:左)の事例発表が上位3大学となる優秀賞に選ばれました。

また、令和3年度に創設された事務部長会議功労賞(改正前:総務委員会委員長賞)においては、全国的活動を通して、自大学のみでなく他大学にも良い効果を与えた事務職員として、予算管理係 斉藤係長(写真:右)が選ばれました。

感染症のリスクを背負いながらも、目の前の人を救いたいという強い気持ちで、最前線で奮闘されている現場の方々に、経営的なルールや制限を説明することは躊躇してしまいます。しかし、経営改善によって生み出される利益が、将来的には人材の確保や高度な医療機器となって沢山の患者を救っていくと確信しながら、今後も多数のご提案をさせていただきますので、ご協力のほどお願いいたします。



NEWS・イベント大募集!

「Harmony」は、病院職員を対象に、院内情報の伝達や職員のコミュニケーションの活性化などを目的として発行しております。行事やイベントなどのNEWSや院内で周知してほしいTOPICSなどがありましたら、病院総務課広報・企画係(bsoumuss1@tokushima-u.ac.jp)までお寄せください。また「Harmony」で取り上げたら良いと思うテーマなど、ご意見・ご提案もお待ちしております。



令和4年度病院執行部の新役員についてご紹介します



副病院長(診療担当) 放射線科 原田 雅史

4月より診療担当の副病院長を拝命しました原田雅史と申します。診療担当として患者さんに最も近い医師として、大学病院の診療を支えていくお世話ができればと思っています。診療での改善点等ありましたら、気軽に直接私宛てに、あるいは周りの病院スタッフにお伝えいただき、私まで届けていただければ幸いに存じます。病院内で働く医療従事者全員の能力を最大限に引き出せるように、診療体制と内容の整備に努めていく所存ですので、皆様のご協力を頂戴できれば幸いに存じます。よろしくお願い申し上げます。



副病院長(看護担当) 看護部 上田 美香

令和4年4月より看護部長に就任しました上田美香です。看護部は看護師・助産師・看護補助者を合わせて約850名を抱える、院内で一番大きな組織です。その組織の長として副病院長としても病院経営に関わらせて頂くことになり、重責に身の引き締まる思いです。

私たち看護職は、24時間365日、継続して患者さんに寄り添う一番身近な存在です。常に患者さんとご家族を看護の中心に置き、安全で安心していただける看護サービスの提供を目指しています。看護職員がいきいきとやりがいを感じながら看護ができる組織づくりに力を注ぎます。どうぞよろしくお願いいたします。



病院長補佐(業務強化担当) 整形外科 西良 浩一

令和4年4月より病院長補佐・病院業務強化担当を拝命いたしました。職務の幅が広く、大変やりがいのある仕事です。まず最初に着手したいことは、徳島大学病院のブランド力を徳島県民のみならず、全日本の皆様にとって頂くことです。例えば、病院の格付けの代表であるセカンドオピニオン外来。徳島には北は北海道から南は沖縄まで、毎年100人を超える相談者が来院しております。このブランド力を活かし、今後、さらにThink and Act, globally and locallyを実践する病院に進化させていく所存です。



病院長補佐(医歯連携担当) 歯科麻酔科 川人 伸次

本年4月から病院長補佐(医歯連携担当)を拝命いたしました歯科麻酔科の川人伸次です。歯科領域の麻酔蘇生学・疼痛緩和医療学・救急集中治療医学を専門とし、最近では難治性疼痛の治療に力を注いでおります。四国で唯一の歯学部を有する総合大学としてのメリットを最大限に生かし、医科歯科連携を更に強化し、徳島大学病院として特色のある医療を地域の皆様のご要望に沿って提供したいと思っております。何卒よろしくお願い申し上げます。



病院長補佐(経営担当) 近藤 武

この度、病院長補佐を拝命いたしました近藤武と申します。生まれも育ちも徳島で、県外の大学卒業後地元金融機関に勤務しておりました。ご縁あって当職に就かせていただいたことを喜んでおりますが、職場の環境・業務内容がこれまでと違うため、皆さまにはご迷惑をおかけすることも多々あると思っております。業務を習得し少しでも早く貢献できるよう邁進してまいりますので、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

新人の職員についてご紹介します



栄養部 栄養士 小河 ゆか

昨年4月より入職しました、管理栄養士の小河ゆかと申します。大学卒業後は三重中央医療センターで勤務し、昨年の春に徳島に帰ってきました。現在は栄養指導や担当病棟の栄養管理の業務を行っております。

私は幼い頃から食えることや作ることが大好きで、『食』を通して誰かに喜んで貰えるような仕事がしたい！また栄養の力で患者さんの健康回復に役立ちたい！という思いから病院栄養士を志し、今年で働いて4年目になります。まだまだ未熟ですが、患者さんから『ありがとう』や『美味しかったよ！』という言葉の頂くと、やりがいに繋がります。ただ食事を提供するだけの栄養士ではなく、『この患者に適した栄養療法は何か』『なぜこの食事や栄養管理が必要か』を常に考え、一人一人に寄り添った栄養サポートを行っていきたいと思っております。お食事のことで何かございましたら、お気軽にご相談下さい。今後ともよろしくお願い致します。



東病棟6階 看護師 山田 珠由

令和3年4月より東病棟6階に入職しました、山田珠由と申します。東病棟6階は食道・乳腺・甲状腺外科、呼吸器外科、消化器外科で手術や放射線、化学療法などの治療のために入院されている患者さんが多くいらっしゃいます。安心して治療を受けることができるように不安に寄り添い、早期に退院できるような看護を心がけています。手術や検査など忙しい病棟で、できないことも多く不安になることもありますが、優しい先輩方と励まし合える同期のお陰で毎日頑張っています。趣味である旅行に行けない日々が続いていますが、休日はドライブをしてリフレッシュしています。看護師として常に向上心を持ち成長していけるように努めてまいりますので、御指導よろしくお願い致します。